

令和6年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	京都工芸繊維大学	タイプ	A
事 業 名	3×3教育制度の活用によるグローバルな次世代マテリアル人材育成プログラム		
海 外 の 相 手 大 学	オルレアン大学（フランス）、ウーディネ大学（イタリア）、ベニス大学カ・フォスカリ校（イタリア）、リュブリャナ大学（スロベニア）、バレンシア大学（スペイン）		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、貴学の強みでもある高機能・最先端マテリアル分野における国際交流の欧州連携大学への展開に向けて、これまでの実績に加えてダブル・ディグリープログラムやコチュテル制度を活用した大学院国際共創教育を実現しようとする意欲的な取組である。

その展開に当たっては、学部4年から博士後期課程の6年間で修士3年、博士3年の3×3プログラムとする大学独自の教育制度を活かした体制で実施する計画となっており、国際的な専門教育と研究活動をシームレスに実施できるプログラムとして高く評価できる。特に、導入科目（JoinTECH-Online）の後、共同研究をベースに、ディスカッションのための一時訪問（JoinTECH-Visit）、さらには、具体的な共同研究を行うための短期訪問（JoinTECH-Lab）へと発展させることで、体系的な国際交流を経験できるプログラムになっており、効果的な国際共創の実現が期待できる。また、カリキュラム面についても、学部4年次における短期留学を博士前期課程の単位として認定するなど、留学が修学のデメリットとならないように配慮されており、学生が積極的に国際交流に参加する機運を醸成することについて期待が持てる。

一方で、英語力養成については、派遣予定の学生数（5年で71人）に比して、英語力基準値（TOEIC730点）の達成目標人数が5年で36人とやや低いので、英語力不足が国際交流の妨げにならないためにも、英語力養成プログラムにおける工夫と目標設定の更なる検討が望まれる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。